

南会津教育事務所では、「自ら学ぶ子供の育成」を学校教育指導の重点の一つとしています。各学力調査や各校の学校評価等の結果を分析すると、「自ら学ぶ力」を子供自らが身につけていくこと、そして、その力を育む授業づくりが本域内の課題となっています。

今回は、「自ら学ぶ子供の育成」への取組の一つとしている「学力向上 RPDCA サイクル」と「全国学力・学習状況調査の問題から見える授業づくりの視点」について掲載しましたのでご覧ください。

## 学力向上 RPDCA サイクルの確立

南会津教育事務所では昨年度から各教育委員会と連携しながら、学力調査の分析をもとにした学校のニーズや課題に合わせた学力向上支援を推進し、以下のような9月始まりの RPDCA サイクルの確立をめざしています。

- R：「全国学力・学習状況調査」「ふくしま学力調査」の結果をもとにした分析（9月）
- P：分析結果をもとにした自校の課題解決に向けた計画
- D：課題解決へ向けた集中的な取組（実践）
- C：次年度の「全国学力・学習状況調査」「ふくしま学力調査」による評価
- A：評価をもとにした計画の再取組（改善）

|       | R3   |       |                   | R                | P                            | D                    | R4       | C                        | A    |
|-------|------|-------|-------------------|------------------|------------------------------|----------------------|----------|--------------------------|------|
|       | 9月   | 10月   | 11月               | 12月              | 1月                           | 2月                   | 3月       | 4月                       | 5月   |
| 学校    | 結果分析 | 課題の報告 | 取組内容計画            | 取組内容計画           | 取組開始                         | 取組開始                 | 取組開始     | 学力調査                     | （取組） |
| 教育委員会 |      |       | 各校の課題把握<br>地教委の方針 | 取組方針についての<br>打合せ | 各校への支援<br>事務所等との連携<br>中間チェック | 各校への支援<br>義務教育課等との連携 | 実施に向けた支援 | 各校への支援<br>事務所等との連携       |      |
| 事務所   |      | 課題把握  | 各校課題に向けた<br>支援策検討 |                  |                              |                      | 実施に向けた支援 | 各校への支援<br>義務教育課等との<br>連携 |      |

  

|       | A                    | R        | P       | D                         | C             | A                            |       |          |                      |                      |          |      |
|-------|----------------------|----------|---------|---------------------------|---------------|------------------------------|-------|----------|----------------------|----------------------|----------|------|
|       | 5月・6月                | 8・9月     | 10月     | 11月                       | 12月           | 2月                           | 3月    | 春季       | 4月                   | 5月                   | 6月       | 夏季休業 |
| 学校    | 実践                   | 家庭学習の充実  | 結果分析    | 取組内容検討・計画                 | 取組開始<br>※強化月間 | 実践                           | ※強化月間 | 家庭学習     | 学力調査                 | ※強化月間<br>※強化月間       | 家庭学習の充実  |      |
| 教育委員会 | 各校への支援<br>事務所等との連携   | 実施に向けた支援 | 各校の分析把握 | 地教委としての方針周知<br>各校の取組計画の把握 |               | 各校への支援<br>事務所等との連携<br>中間チェック |       | 実施に向けた支援 | 各校への支援<br>事務所等との連携   | 各校への支援<br>事務所等との連携   | 実施に向けた支援 |      |
| 事務所   | 各校への支援<br>義務教育課等との連携 | 実施に向けた支援 | 各校の分析把握 | 域内学力向上対策会議<br>各校の取組計画の把握  |               | 各校への支援<br>義務教育課等との連携         |       | 実施に向けた支援 | 各校への支援<br>義務教育課等との連携 | 各校への支援<br>義務教育課等との連携 | 実施に向けた支援 |      |

現在は、RPDCA の A（評価をもとにした計画の再取組）にあたる時期です。昨年度からの各校の学力向上の取組を評価するとともに、継続して行うことや改善点を話し合い、全教職員で学力向上計画を共有して実践していただければと思います。

また、新学期が始まり 2 ヶ月となり、児童生徒の一人一人の実態が見えてくる時期です。昨年度までの実態も踏まえ、一人一人の学習状況を把握し、「つまずきが見られること」については早めに補充指導や家庭学習による振り返りなどを行い、個に応じた指導の充実を図っていきたいものです。



# 全国学力・学習状況調査問題から

今年度の出題問題から、昨年度の域内の課題（記述式問題）を踏まえ、今後の授業で意識したい視点を取り上げてみました。各校の実態に合わせ、重点的に取り組んでみてはいかがでしょうか？  
なお、「令和4年度全国学力・学習状況調査 解説資料」でも詳細が確認できますので、ご覧ください。

## 【小学校国語】

- ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりする。（話し合い活動の充実。文字数を限定して書く問題に慣れる）
- ・叙述や描写に即して「読む力」や引用・要約など「表現する力」を養う（教科書本文、教科書以外の文章での引用・要約）
- ・推敲活動の充実を図る（さまざまな観点で文章を読み合い、他者や自分の文章のよさを見つける）

## 【中学校国語】

- ・自分の考えがわかりやすく伝わるように話す意図を明確に表現を工夫して話す。（言葉の抑揚、強弱、間の取り方）
- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く。（資料から必要な情報を引用して書く。条件作文に慣れる）
- ・場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する。（目的に応じて必要な情報に着目し要約する）

## 【小学校算数】

- ・示された日常場面を解釈し、除法で求めることができる理由を言葉と数を用いて記述する。
- ・日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりする。
- ・問題場面の数量の関係に着目し、数量の関係を簡潔に表現したり、式の意味を読み取ったりする。（式や言葉を用いて記述）
- ・図形の意味や性質を基に、図形を構成する要素に着目し、図形の構成の仕方について考察する。（言葉と数を用いて記述）

## 【中学校数学】

- ・命題や推測した事柄について考察する（筋道を立てて考える、反例の意味を理解する）（式から図を書いて考える。話し合い活動を通して考える。）
- ・ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する。（説明や書き方に慣れることも大切。3行程度で証明するスキルを繰り返し指導し、添削する）
- ・生徒の言葉を大切に授業を展開し、用語と生徒の言葉をつないでいく授業を大切にする。

## 【小学校理科】

- ・児童が見いだした問題について予想や仮説を立て、自分の考えと他者の考えとを比較しながら互いの予想や仮説について理解し、解決の方法を発想できるよう意見交換の場を設ける。（課題設定→仮説→検証方法→記録の整理→考察→共有→考察）
- ・自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して改善し、その内容を記述する。
- ・情報を分析して解釈するために複数の視点で比較し、差異点や共通点を見だし分類し、自分の考えをもつ。
- ・観察・実験などに関する技能を身に付ける。（既習事項の活用）

## 【中学校理科】

- ・継続的に気象観測を行い、気象要素と天気の変化を関連付けて捉えられるようにする。（観測データや空の様子を撮影した画像の蓄積、共有と考察）
- ・身に付けた知識及び技能を日常生活の事象に活用し、問題を見いだして課題を設定するなど、科学的な探究を主体的にできるようにする。（レポート作成やポスターなどにまとめ、発表や対話を通して考察）
- ・化石や露頭の観察結果から推論の妥当性を検討したり、複数の露頭から地層の広がりや推論したりする。